

令和元年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
林産部門

伝統を守り、次世代の担い手を育てる林業家

○氏名又は名称 須藤 義朗

○所在地 栃木県大田原市

○出品財 経営（林業経営）

○受賞理由

・地域の概要

大田原市は、栃木県東部に位置し、福島県から栃木・茨城県境を南下し筑波山に至る八溝山地を有し、優良材と評価される「八溝材」を生産する古くからの林業地帯となっている。冬期は降雪が少なく、夏期の台風被害も少ないなど、気象害が発生しにくく適度な降水量があり、素性の良い木材の育成に適している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

須藤氏は、約 200 年前の江戸時代後期に林業経営を始めた先祖から数えて 5 代目にあたる。所有山林の集約化や路網整備を先祖代々積極的に行なってきたり、現在の効率的な経営基盤が形成された。木材価格が低迷するなか、製茶業等との複合経営を行なうことで、収益の安定性を確保している。

・受賞者の特色

(1) 高付加価値材の生産

所有山林のうち、林齢 80 年以上の林分は約 9 ha あり、これらの林分から注文材として長尺材や大径材の出荷を行っている。また、20 年前から取り組んでいる葉枯材は建築事業者から定期的な注文があり、こうした高付加価値材の生産は、木目が均一で赤みが美しく、欠点が少ないといった特徴が有し、優良材と評価される「八溝材」のブランド力を向上させるものとなっている。

(2) 森林組合長として地域を牽引

平成 19 年度には、大田原森林組合の代表理事組合長に就任し、大型の高性能林業機械の導入による高効率作業システムの構築や人材育成に力を入れ、森林組合の経営改善に取り組んできた。また、山林経営に関心が薄い森林所有者への働きかけを積極的に行い、間伐の推進や森林施業の集約化に寄与した。現在の丁寧な作業の実施と利益還元により森林所有者から信頼される森林組合となるための体制づくりに尽力してきた。

・普及性と今後の発展方向

須藤氏のようにきめ細やかな森林整備によって生産される高品質材が、伝統ある「八溝材」のブランド力の維持に貢献している。森林組合長として多くの功績を残し、現在も地元高校生や小学生に対する体験イベントを継続的に実施しているなど、次世代を育てる地域林業の指導者としての活躍が期待される。